

国民健康保険・協会けんぽ 二次医療圏別 医療費、特定健診結果【概要版】 (令和3年度分)

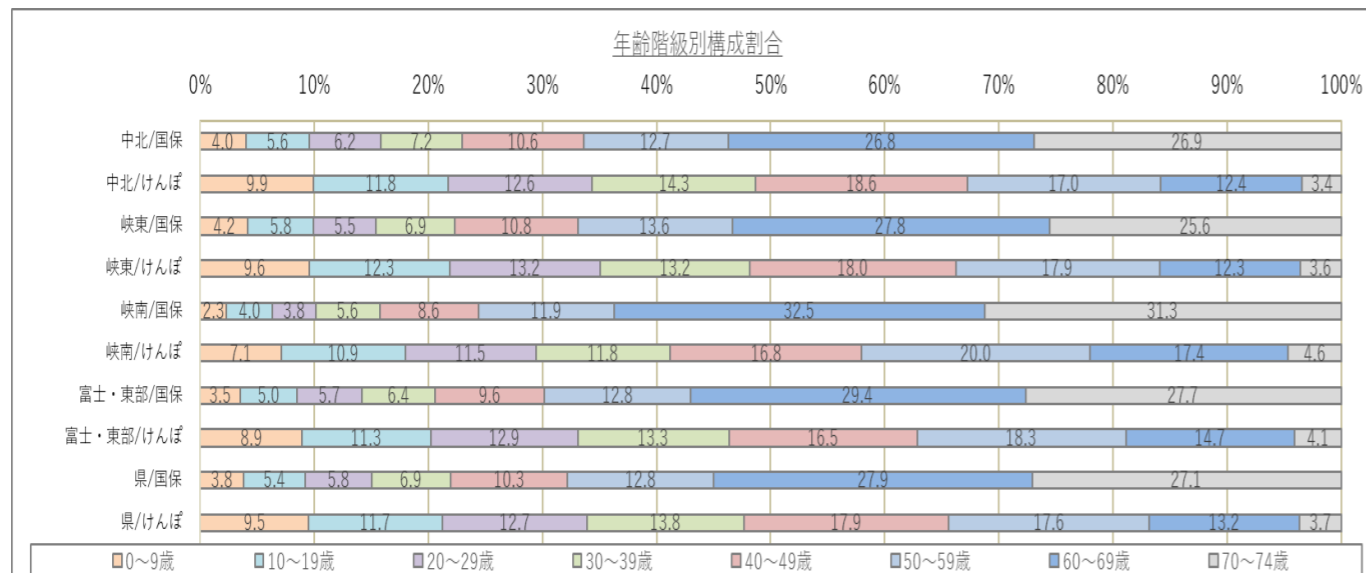
<目的>

地域全体の健康課題を把握するため、国保及び協会けんぽ加入者の医療費、特定健診の受診状況について、二次医療圏別に分析しました。

1. 加入者の状況

●国民健康保険・協会けんぽ加入者数

	保険	加入者数									構成比
		0~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~74歳	合計	
中北	国民健康保険	4,026	5,644	6,301	7,276	10,712	12,832	27,108	27,215	101,114	54.3
	協会けんぽ	15,535	18,428	19,759	22,429	29,009	26,504	19,327	5,353	156,343	55.9
峡東	国民健康保険	1,413	1,958	1,861	2,345	3,655	4,601	9,438	8,674	33,945	18.3
	協会けんぽ	4,490	5,752	6,185	6,165	8,452	8,375	5,775	1,685	46,879	16.8
峡南	国民健康保険	265	454	439	642	989	1,356	3,714	3,575	11,434	6.2
	協会けんぽ	1,098	1,690	1,780	1,823	2,604	3,106	2,693	717	15,511	5.5
富士・東部	国民健康保険	1,359	1,959	2,215	2,503	3,739	5,000	11,459	10,799	39,033	21.0
	協会けんぽ	5,459	6,883	7,865	8,118	10,062	11,190	9,004	2,508	61,090	21.8
県計	国民健康保険	7,063	10,015	10,816	12,766	19,095	23,789	51,719	50,263	185,526	
	協会けんぽ	26,581	32,753	35,589	38,536	50,128	49,174	36,799	10,262	279,822	

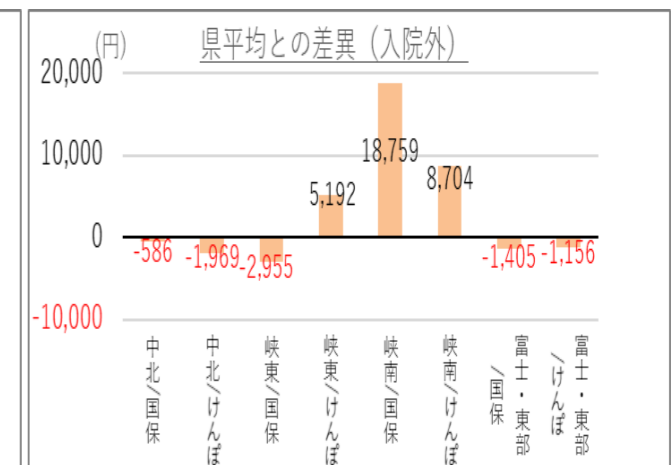
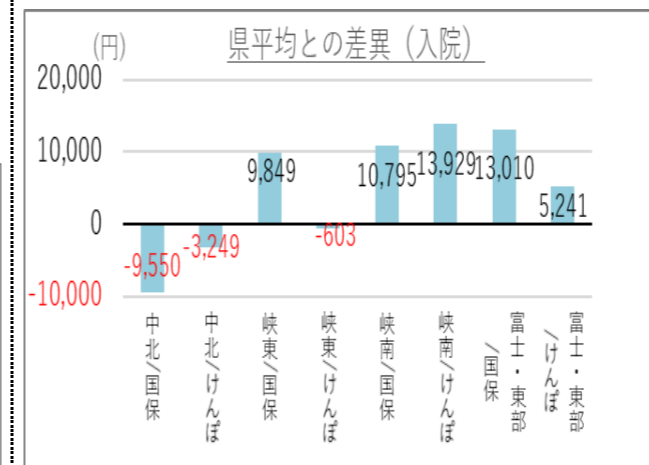


- ・加入者数が最も多い中北地域と、最も少ない峡南地域では約10倍の差があります。
- ・国保では60歳以上の加入者の割合が55%を占めており、最も高い地域は峡南地域で63.8%になります。
- ・協会けんぽでは20歳～59歳の加入者の割合が62%を占めており、国保の35.8%と比較し約1.7倍となります。
- ・20歳未満の加入者の割合は、協会けんぽは21.2%で、国保の9.2%と比較し約2.3倍となります。

2. 医療費の状況

●加入者一人当たり医療費 等

	加入者	一人当たり医療費			
		入院	入院外	合計	(円)
中北	国民健康保険	124,019	201,809	325,828	
	協会けんぽ	49,334	110,605	159,939	
	国保・けんぽ合計	78,666	146,424	225,090	
峡東	国民健康保険	143,418	199,440	342,858	
	協会けんぽ	51,980	117,766	169,746	
	国保・けんぽ合計	90,383	152,068	242,451	
峡南	国民健康保険	144,364	221,154	365,518	
	協会けんぽ	66,512	121,278	187,790	
	国保・けんぽ合計	99,548	163,660	263,208	
富士・東部	国民健康保険	146,579	200,990	347,569	
	協会けんぽ	57,824	111,418	169,242	
	国保・けんぽ合計	92,425	146,338	238,763	
県平均	国民健康保険	133,569	202,395	335,964	
	協会けんぽ	52,583	112,574	165,157	
	国保・けんぽ合計	84,871	148,384	233,255	



一人当たり医療費年次推移

年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
国民健康保険	310,030	316,217	324,705	314,458	335,964
協会けんぽ	155,528	155,326	158,678	152,200	165,157

- ・国保・協会けんぽ合計の一人当たり医療費は、峡南地域（263,208円）、峡東地域（242,451円）の順に高くなっています。特に峡南地域は、国保・協会けんぽともに入院及び入院外において県平均より高くなっています。
- ・国保と協会けんぽで比較すると、国保（335,964円）は協会けんぽ（165,157円）の約2倍となります。
- ・年次別に見ると、令和2年度は国保・協会けんぽともに医療費が減少しましたが、令和3年度には医療費が増加しており、新型コロナウイルスの感染拡大による受診控えが解消したことによるものと考えられます。
- ・傷病別医療費の割合を見ると、国保・協会けんぽともに「新生物」「循環器系の疾患」の割合が高くなっています。国保と協会けんぽの割合を比較し、国保が高い疾病は「精神及び行動の障害」「神経系の疾患」「尿路性器系の疾患」で、協会けんぽが高い疾病は「呼吸器系の疾患」となっています。（資料2-2 P.5）

3. 特定健診の受診状況

① 特定健診受診率

中北		峡東		峡南		富士・東部		県平均	
54.9%		55.6%		63.0%		51.4%		54.8%	
国保	協会けんぽ	国保	協会けんぽ	国保	協会けんぽ	国保	協会けんぽ	国保	協会けんぽ
44.4%	64.2%	46.6%	64.6%	58.6%	67.2%	41.4%	60.0%	45.1%	63.5%

特定健診受診率の年次推移

年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
国民健康保険	44.9	46.0	46.6	39.1	45.1
協会けんぽ	60.4	62.0	62.4	61.1	63.5

- ・国保の受診率について、最も高い地域は峡南地域で58.6%、次に峡東地域で46.6%となっています。
- ・協会けんぽの受診率は、いずれの地域も6割を超えています。
- ・最も高い地域は峡南地域で67.2%、次に峡東地域で64.6%となっています。
- ・年次推移を見ると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、特に国保で令和2年度の受診率が減少していますが、令和3年度は令和元年度と同程度の受診率となっています。

② 血圧リスク保有率 (最高血圧：130mmHg以上の人の割合)

		男性 リスク保有率				女性 リスク保有率					
		0%	20%	40%	60%	80%	0%	20%	40%	60%	80%
中北	国民健康保険				52.1%				45.6%		
	協会けんぽ				60.3%				40.3%		
	国保・けんぽ合計				57.2%				42.6%		
峡東	国民健康保険				53.0%				46.9%		
	協会けんぽ				61.8%				42.6%		
	国保・けんぽ合計				58.2%				44.6%		
峡南	国民健康保険				58.9%				55.7%		
	協会けんぽ				65.1%				46.9%		
	国保・けんぽ合計				62.2%				51.3%		
富士・東部	国民健康保険				59.1%				51.6%		
	協会けんぽ				66.6%				47.1%		
	国保・けんぽ合計				63.7%				49.2%		
県平均	国民健康保険				54.3%				47.8%		
	協会けんぽ				62.2%				42.4%		
	国保・けんぽ合計				59.1%				44.9%		

- ・血圧リスク保有率は、国保・協会けんぽともに男性が女性より高くなっています。
- ・国保と協会けんぽで血圧リスク保有率を比較すると、男性は協会けんぽが高く、女性は国保が高くなっています。
- ・地域別に見ると、国保では男性が富士・東部地域が高く、女性は峡南地域が高くなっています。
- ・協会けんぽでは、男性・女性ともに富士・東部地域が高くなっています。

③ 糖代謝リスク保有率

二次医療圏別 国民健康保険加入者 特定健診結果 (糖代謝リスク保有率)

	男性 リスク保有率				女性 リスク保有率					
	0%	20%	40%	60%	80%	0%	20%	40%	60%	80%
中北				43.6%					29.3%	
峡東				43.4%					26.7%	
峡南				42.0%					29.4%	
富士・東部				49.9%					31.2%	
県計				44.7%					29.2%	

二次医療圏別 協会けんぽ加入者 特定健診結果 (糖代謝リスク保有率)

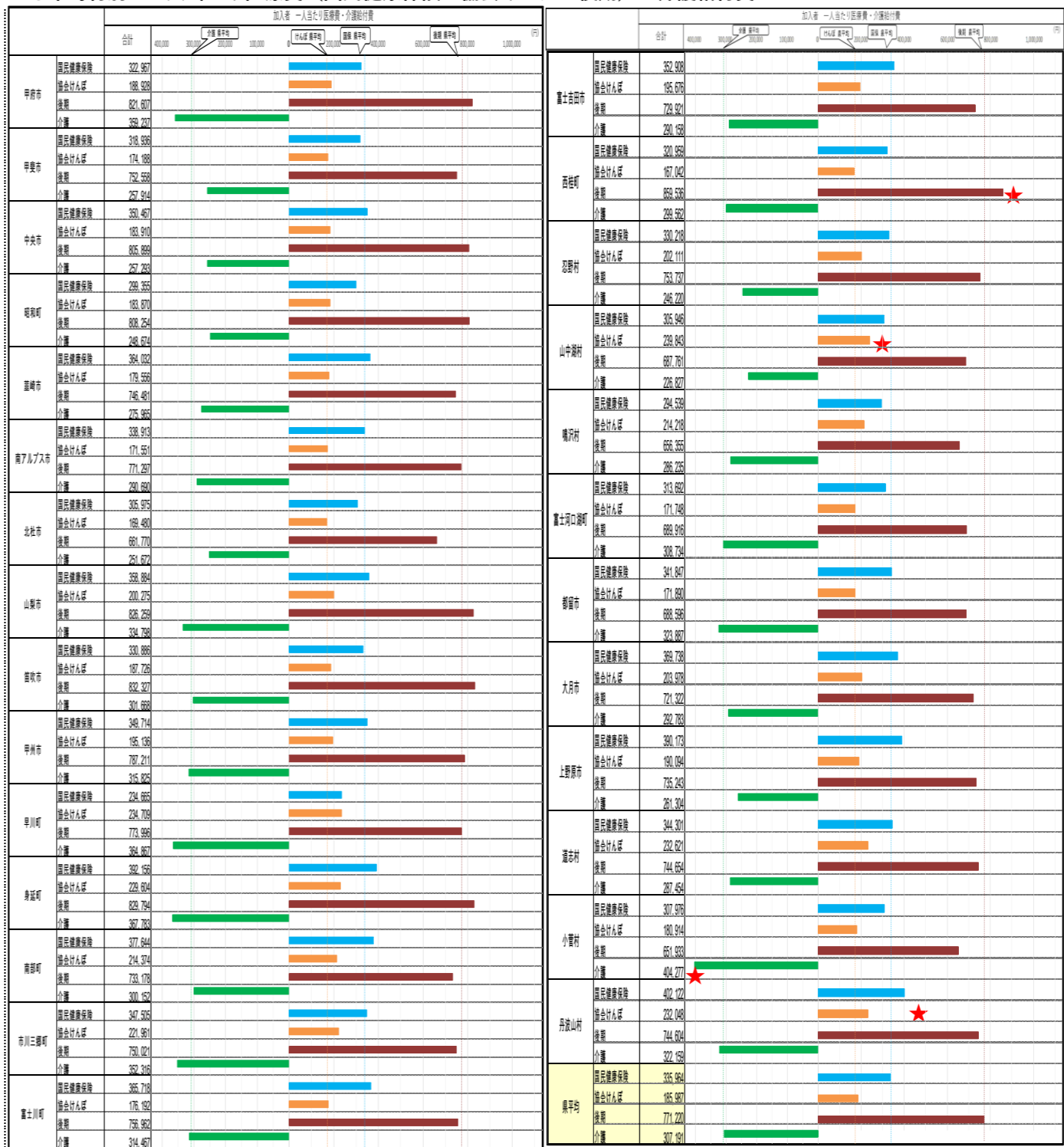
	男性 リスク保有率				女性 リスク保有率					
	0%	20%	40%	60%	80%	0%	20%	40%	60%	80%
中北				21.8%					10.0%	
峡東				22.7%					10.3%	
峡南				24.8%					12.6%	
富士・東部				24.9%					10.8%	
県計				22.8%					10.8%	

* 国保と協会けんぽでは糖代謝リスクの判定が異なるため、両者を比較できません。
(資料2-2 P.14)

- ・糖代謝リスク保有率は、国保・協会けんぽともに女性より男性の割合が高くなっています。
- ・国保では、男性・女性ともに、富士・東部地域が高くなっています。
- ・協会けんぽでは、男性は富士・東部地域、女性は峡南地域が高くなっています。

参考 医療費・介護給付費の比較

● 市町村別 一人当たり医療費 (国民健康保険・協会けんぽ・後期) ・介護給付費



- ・県内で一人当たり医療費・介護給付費それぞれで最も高い市町村 (★印) ※カッコ内は県平均との差額
 - <国保> 丹波山村 402,122円 (+66,158円)
 - <協会けんぽ> 山中湖村 239,843円 (+53,856円)
 - <後期> 西桂町 859,536円 (+88,316円)
 - <介護> 小菅村 404,277円 (+97,086円)

- ・県内で一人当たり医療費・介護給付費それぞれで最も低い市町村 ※カッコ内は県平均との差額
 - <国保> 早川町 234,665円 (-101,299円)
 - <協会けんぽ> 西桂町 167,042円 (-18,945円)
 - <後期> 小菅村 651,933円 (-119,287円)
 - <介護> 山中湖村 226,827円 (-80,364円)

国民健康保険・全国健康保険協会（山梨県支部） 二次医療圏別
医療費、特定健診結果（令和3年度分）

令和6年3月
山梨県保険者協議会

《目次》

加入者状況(令和3年度平均) 二次医療圏別 国民健康保険・協会けんぽ加入者合計	1
	二次医療圏別 国民健康保険・協会けんぽ加入者数(健康保険別)	2
加入者一人当たり医療費(令和3年度) 二次医療圏別 一人当たり医療費(国民健康保険・協会けんぽ加入者合計)	3
	二次医療圏別 一人当たり医療費(国民健康保険・協会けんぽ加入者別)	4
傷病別医療費(入院+入院外)の割合(令和3年度) 二次医療圏別 国民健康保険・協会けんぽ加入者 傷病別医療費の割合(入院+入院外)	5
	二次医療圏別 特定健診受診者数(国民健康保険・協会けんぽ加入者合計)	6
特定健診受診状況(令和3年度) 二次医療圏別 特定健診受診者数(国民健康保険・協会けんぽ加入者別)	7
	二次医療圏別 メタボ保有率(国民健康保険・協会けんぽ加入者合計)	8
	二次医療圏別 メタボ保有率(国民健康保険・協会けんぽ加入者別)	9
	二次医療圏別 腹囲リスク保有率(国民健康保険・協会けんぽ加入者合計)	10
	二次医療圏別 腹囲リスク保有率(国民健康保険・協会けんぽ加入者別)	11
	二次医療圏別 血圧リスク保有率(国民健康保険・協会けんぽ加入者合計)	12
	二次医療圏別 血圧リスク保有率(国民健康保険・協会けんぽ加入者別)	13
	二次医療圏別 国民健康保険加入者 特定健診結果(糖代謝リスク保有率)	14
	二次医療圏別 脂質リスク保有率(国民健康保険・協会けんぽ加入者合計)	15
	二次医療圏別 脂質リスク保有率(国民健康保険・協会けんぽ加入者別)	16
	二次医療圏別 喫煙者の割合(国民健康保険・協会けんぽ加入者合計)	17
	二次医療圏別 喫煙者の割合(国民健康保険・協会けんぽ加入者別)	18
	市町村別 一人当たり医療費(国民健康保険・協会けんぽ・後期)・介護給付費	19
まとめ まとめ	20

注1: 全国健康保険協会(山梨県支部) 以降は協会けんぽとする。

注2: 国保連合会の資料は国保データベース(KDBシステム)に基づく。

協会けんぽは「令和3年度協会けんぽ加入者 保健福祉事務所管内別医療費、健診受診状況について」(協会けんぽ作成)に基づく。

各医療圏域に属する市町村は以下のとおり

中北圏域: 甲府市、甲斐市、中央市、昭和町、韮崎市、南アルプス市、北杜市

峡東圏域: 山梨市、笛吹市、甲州市

峡南圏域: 市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町

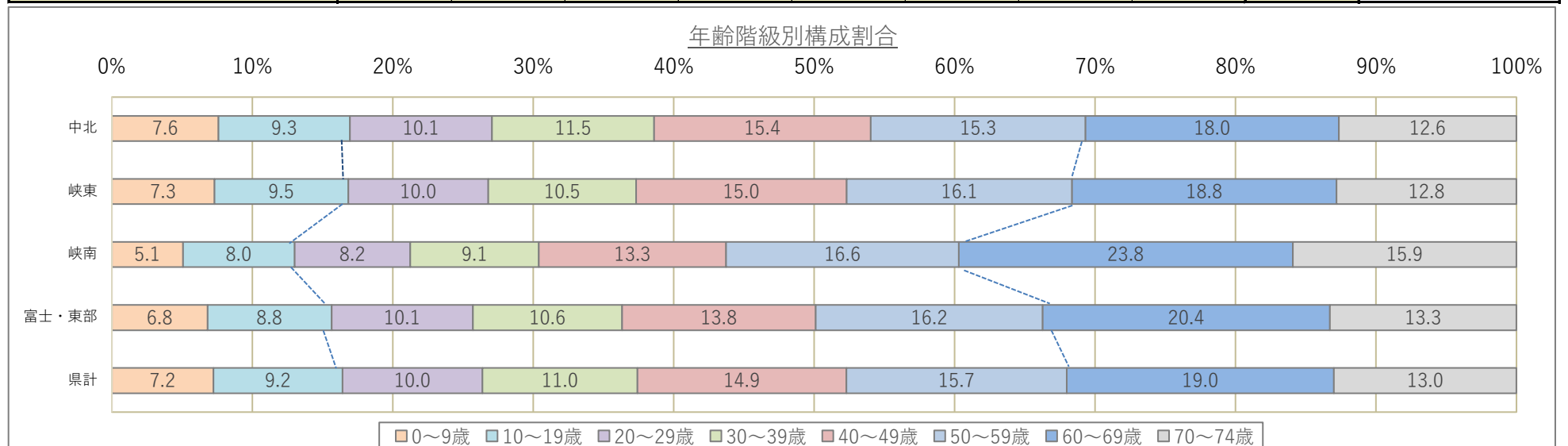
富士・東部圏域: 富士吉田市、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、都留市、大月市、上野原市、道志村、小菅村、丹波山村

加入者状況（令和3年度平均）

二次医療圏別 国民健康保険・協会けんぽ加入者合計

※協会けんぽ加入者数は年度平均で算出

	加入者数									構成比
	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	合計	
中北	19,561	24,072	26,060	29,705	39,721	39,336	46,435	32,568	257,457	55.3
峡東	5,903	7,710	8,046	8,510	12,107	12,976	15,213	10,359	80,824	17.4
峡南	1,363	2,144	2,219	2,465	3,593	4,462	6,407	4,292	26,945	5.8
富士・東部	6,818	8,842	10,080	10,621	13,801	16,190	20,463	13,307	100,123	21.5
県計	33,644	42,768	46,405	51,302	69,223	72,963	88,518	60,525	465,348	



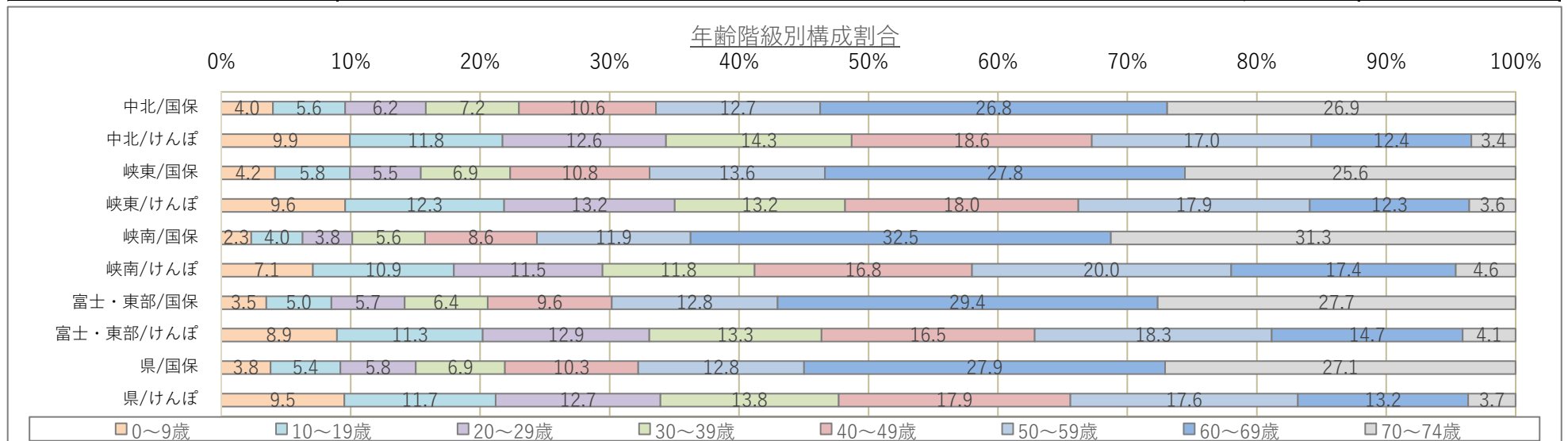
国保・協会けんぽ加入者の合計数を地域別に見ると、最も多い中北地域（55.3%）と最も少ない峡南地域（5.8%）で、約10倍の差があります。県の年齢階級別構成割合は、20歳未満が16.4%、20歳～59歳が51.6%、60歳～74歳が32.0%ですが、峡南地域は他地域に比べ、20歳未満が少なく60歳～74歳が多くなっています。

加入者状況（令和3年度平均）

二次医療圏別 国民健康保険・協会けんぽ加入者数（健康保険別）

※協会けんぽ加入者数は年度平均で算出

	保険	加入者数									構成比
		0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	合計	
中北	国民健康保険	4,026	5,644	6,301	7,276	10,712	12,832	27,108	27,215	101,114	54.5
	協会けんぽ	15,535	18,428	19,759	22,429	29,009	26,504	19,327	5,353	156,343	55.9
峡東	国民健康保険	1,413	1,958	1,861	2,345	3,655	4,601	9,438	8,674	33,945	18.3
	協会けんぽ	4,490	5,752	6,185	6,165	8,452	8,375	5,775	1,685	46,879	16.8
峡南	国民健康保険	265	454	439	642	989	1,356	3,714	3,575	11,434	6.2
	協会けんぽ	1,098	1,690	1,780	1,823	2,604	3,106	2,693	717	15,511	5.5
富士・東部	国民健康保険	1,359	1,959	2,215	2,503	3,739	5,000	11,459	10,799	39,033	21.0
	協会けんぽ	5,459	6,883	7,865	8,118	10,062	11,190	9,004	2,508	61,090	21.8
県計	国民健康保険	7,063	10,015	10,816	12,766	19,095	23,789	51,719	50,263	185,526	
	協会けんぽ	26,581	32,753	35,589	38,536	50,128	49,174	36,799	10,262	279,822	

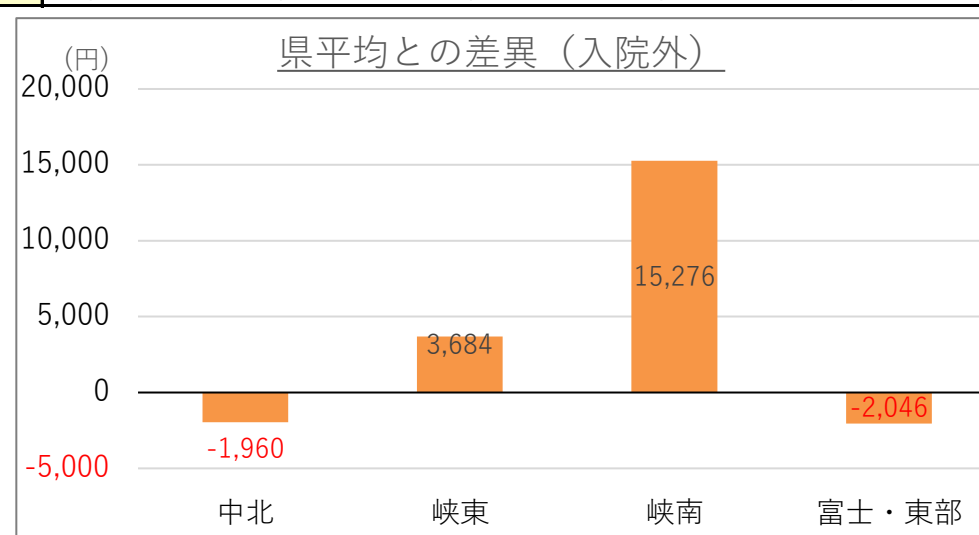
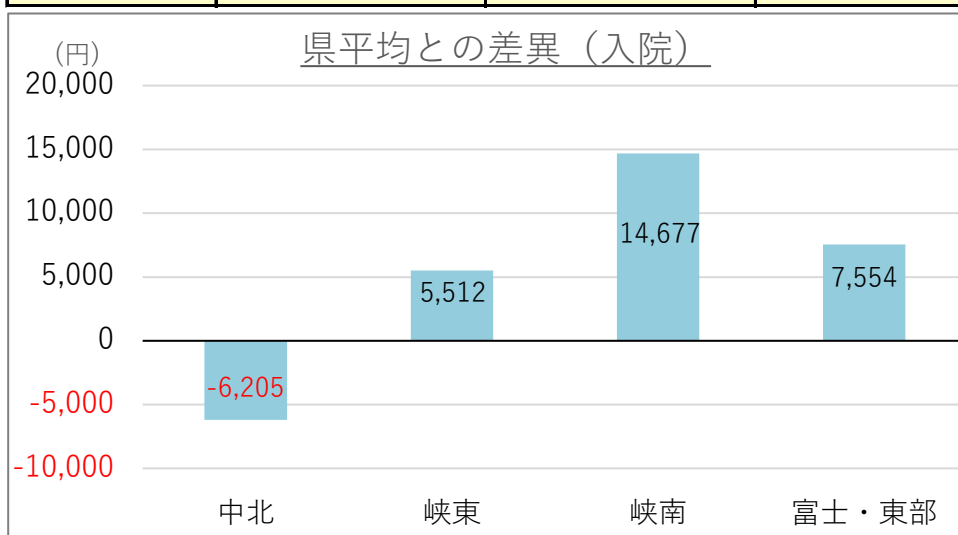


加入者数を国保・協会けんぽ別に見ると、地域によっても差がありますが、国保では60歳以上の方が55%を占めています。60歳以上の方の割合が最も高い地域は峡南地域（63.8%）です。20歳～59歳の方の割合について、協会けんぽは62%を占めており、国保（35.8%）の約1.7倍となります。20歳未満の割合は、協会けんぽは21.2%で国保（9.2%）の約2.3倍となります。

加入者一人当たり医療費（令和3年度）

二次医療圏別 一人当たり医療費（国民健康保険・協会けんぽ加入者合計）

	加入者 一人当たり医療費			0 100,000 200,000 300,000 400,000 (円)				
	入院	入院外	合計	[Bar Chart Scale]				
中北	78,666	146,424	225,090	[Bar Chart]				
峡東	90,383	152,068	242,451	[Bar Chart]				
峡南	99,548	163,660	263,208	[Bar Chart]				
富士・東部	92,425	146,338	238,763	[Bar Chart]				
県平均	84,871	148,384	233,255	[Bar Chart]				



一人当たり医療費の合計額は、峡南地域（263,208円）、峡東地域（242,451円）の順に高く、峡南地域・峡東地域は入院・入院外ともに県平均を上回っています。富士・東部地域は、入院では県平均を上回っていますが、入院外では県平均を下回っています。一人当たり医療費合計額が最も少ない中北地域は、入院・入院外ともに県平均を下回っています。

加入者一人当たり医療費（令和3年度）

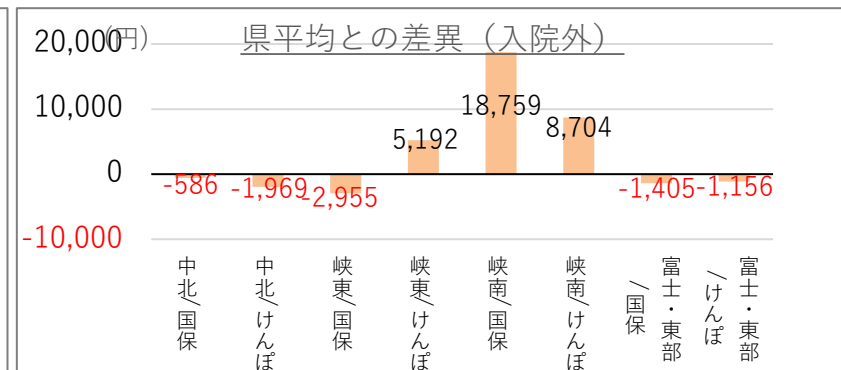
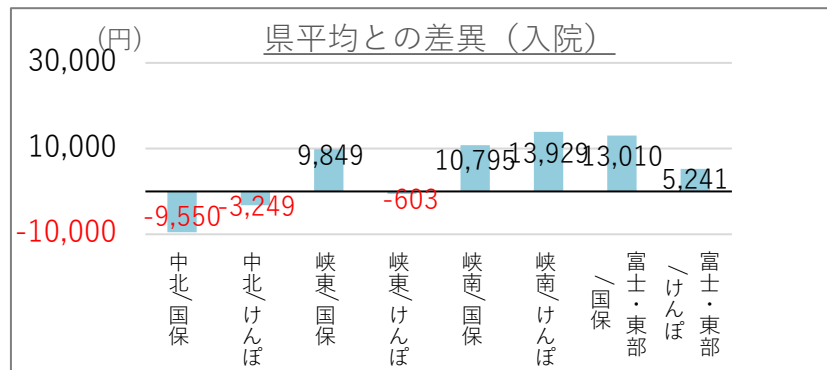
二次医療圏別 一人当たり医療費（国民健康保険・協会けんぽ加入者別）

		加入者 一人当たり医療費							
		入院	入院外	合計	0	100,000	200,000	300,000	400,000 (円)
中北	国民健康保険	124,019	201,809	325,828					
	協会けんぽ	49,334	110,605	159,939					
峡東	国民健康保険	143,418	199,440	342,858					
	協会けんぽ	51,980	117,766	169,746					
峡南	国民健康保険	144,364	221,154	365,518					
	協会けんぽ	66,512	121,278	187,790					
富士・東部	国民健康保険	146,579	200,990	347,569					
	協会けんぽ	57,824	111,418	169,242					
県平均	国民健康保険	133,569	202,395	335,964					
	協会けんぽ	52,583	112,574	165,157					

一人当たり医療費年次推移

(円)

年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
国民健康保険	310,030	316,217	324,705	314,458	335,964
協会けんぽ	155,528	155,326	158,678	152,200	165,157

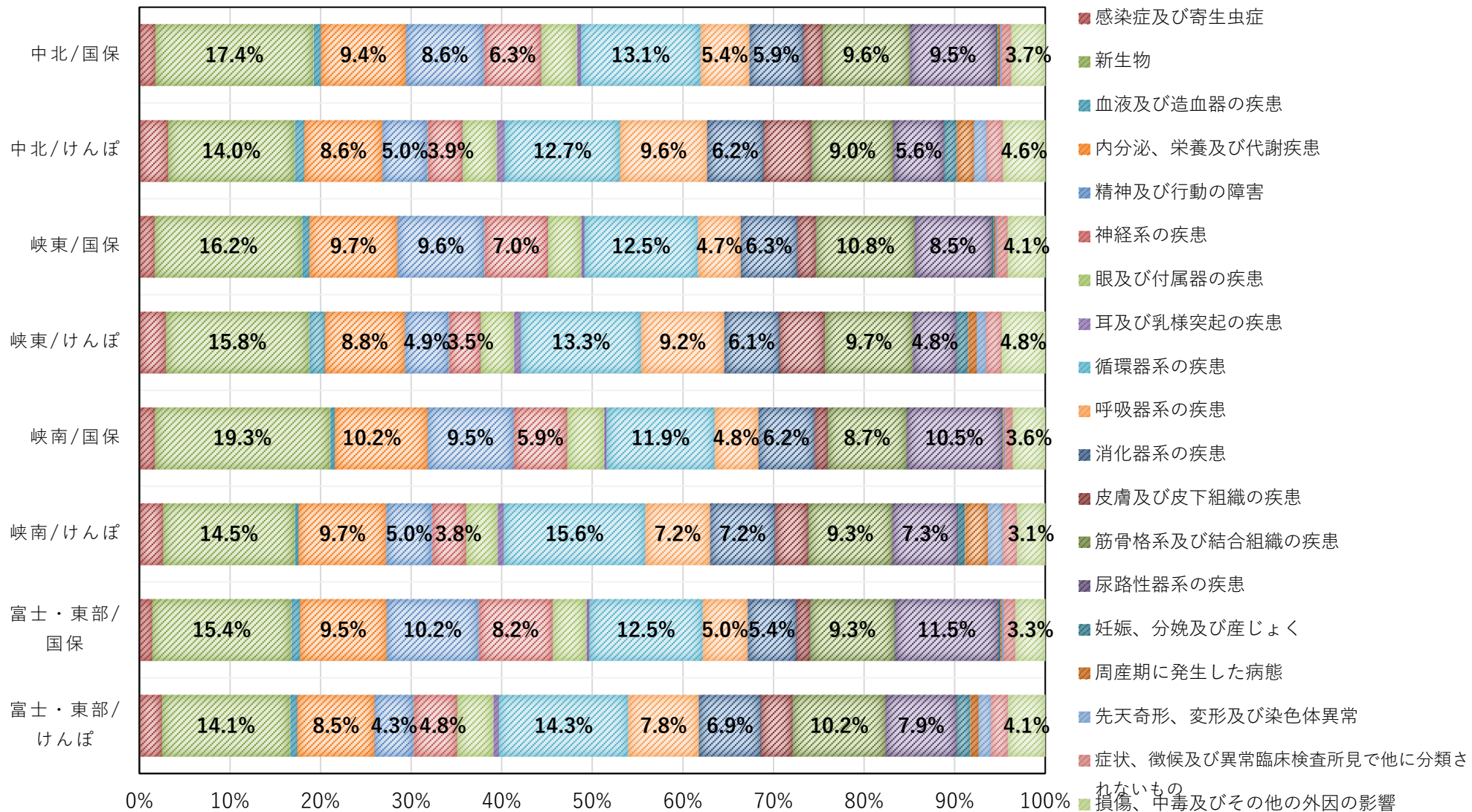


県平均の一人当たり医療費は、国保（335,964円）は協会けんぽ（165,157円）の約2倍の額となっています。地域別に見ると、国保・協会けんぽともに峡南地域の高さが目立っています。県平均との比較では、峡南地域の国保の入院外医療費が特に高い状況です。また、一人当たり医療費の年次推移では、令和2年度は国保・協会けんぽともに医療費が減少しましたが、令和3年度には医療費が増加しており、新型コロナウイルスの感染拡大による受診控えが解消したことによるものと考えられます。

傷病別医療費（入院＋入院外）の割合（令和3年度）

二次医療圏別 国民健康保険・協会けんぽ加入者 傷病別医療費の割合（入院＋入院外）

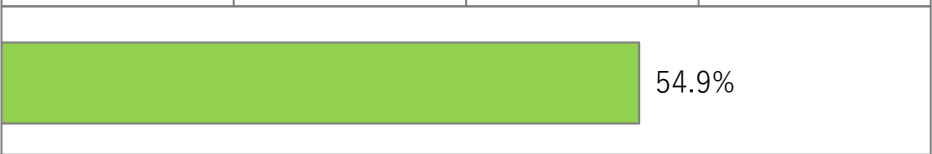




※主な疾病大分類のみ表示



傷病別医療費の割合を見ると、国保・協会けんぽともに「新生物」「循環器系の疾患」の割合が高くなっています。国保と協会けんぽの割合を比較し、国保が高い疾病は「精神及び行動の障害」「神経系の疾患」「尿路性器系の疾患」で、協会けんぽが高い疾病は「呼吸器系の疾患」となっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

二次医療圏別 特定健診受診者数（国民健康保険・協会けんぽ加入者合計）

	40歳以上被保険者		受診者の割合				
	対象者数	受診者	0%	20%	40%	60%	80%
中北	151,038	82,902					
峡東	48,706	27,069					
峡南	17,976	11,318					
富士・東部	60,805	31,278					
県計	278,525	152,567					

特定健診の受診者数を地域別に見ると、県内で最も受診者の割合が高いのは峡南地域（63.0%）で、峡東地域（55.6%）、中北地域（54.9%）、富士・東部地域（51.4%）の順になります。県全体では、約55%の方が特定健診を受診しています。

特定健診受診状況（令和3年度）

二次医療圏別 特定健診受診者数（国民健康保険・協会けんぽ加入者別）

		40歳以上被保険者		受診者の割合				
		対象者数	受診者	0%	20%	40%	60%	80%
中北	国民健康保険	70,871	31,466	44.4%				
	協会けんぽ	80,167	51,436	64.2%				
峡東	国民健康保険	24,418	11,374	46.6%				
	協会けんぽ	24,288	15,695	64.6%				
峡南	国民健康保険	8,856	5,191	58.6%				
	協会けんぽ	9,120	6,127	67.2%				
富士・東部	国民健康保険	28,042	11,612	41.4%				
	協会けんぽ	32,763	19,666	60.0%				
県計	国民健康保険	132,187	59,643	45.1%				
	協会けんぽ	146,338	92,924	63.5%				

特定健診受診率の年次推移

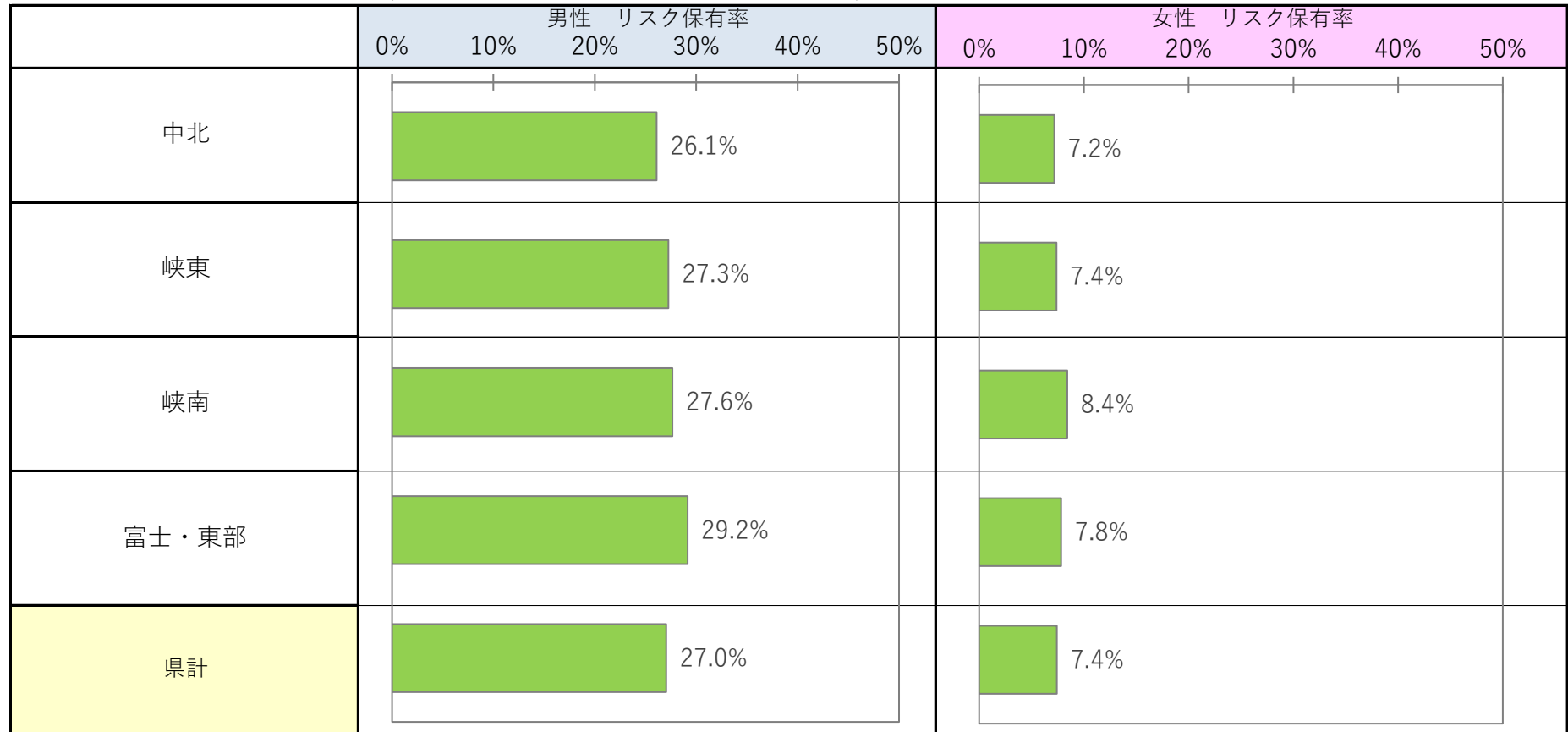
（%）

年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
国民健康保険	44.9	46.0	46.6	39.1	45.1
協会けんぽ	60.4	62.0	62.4	61.1	63.5

特定健診受診者数を国保・協会けんぽ別に見ると、国保は峡南地域が6割近く（58.6%）と最も高く、次に峡東地域（46.6%）が高くなっています。協会けんぽは多少のばらつきはありますが、いずれの地域も6割を超えており、国保と同様に峡南地域（67.2%）、峡東地域（64.6%）の順に高くなっています。また、年次推移を見ると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、特に国保で令和2年度の受診率が減少していますが、令和3年度は令和元年度と同程度の受診率となってい

特定健診受診状況（令和3年度）

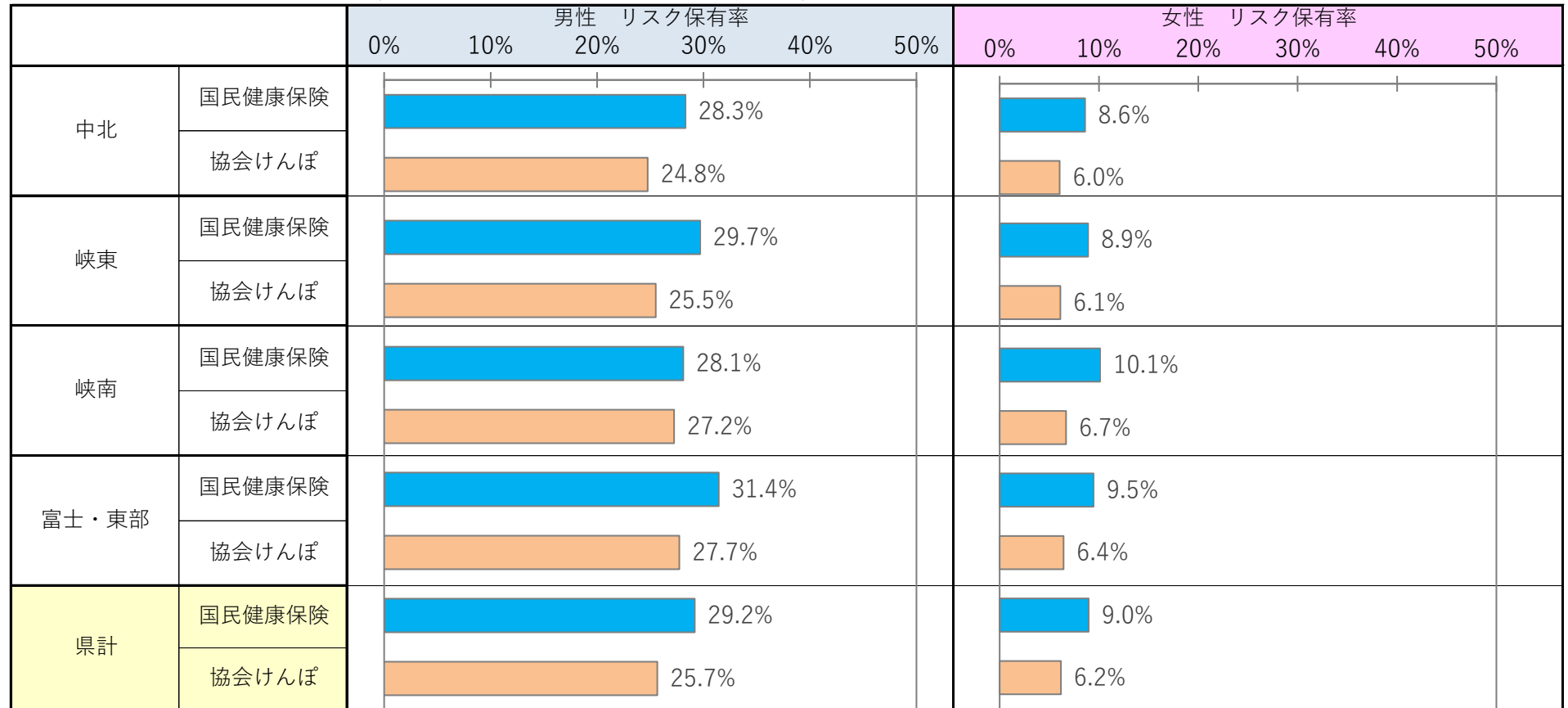
二次医療圏別 メタボ保有率（国民健康保険・協会けんぽ加入者合計）



特定健診におけるメタボ保有率は、県計で男性が27.0%、女性が7.4%と、男性は女性の約3.6倍高い割合となっています。地域別に見ると、男性では富士・東部地域（29.2%）、女性では峡南地域（8.4%）が高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

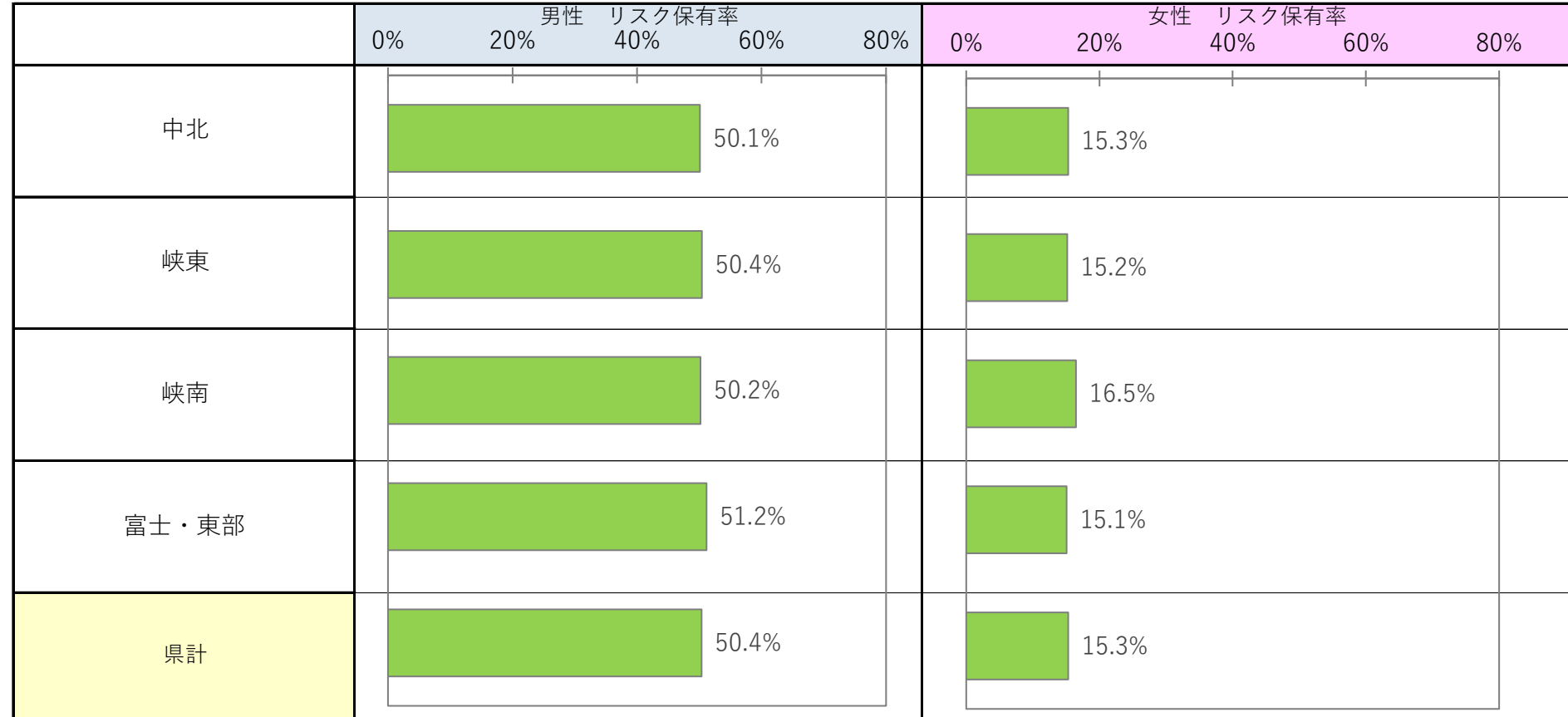
二次医療圏別 メタボ保有率（国民健康保険・協会けんぽ加入者別）



メタボ保有率を国保・協会けんぽ別に見ると、男性・女性ともに、国保が協会けんぽより割合が高い傾向にあります。地域別に見ると、国保・協会けんぽともに、男性は富士・東部地域が高く、女性は峡南地域が高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

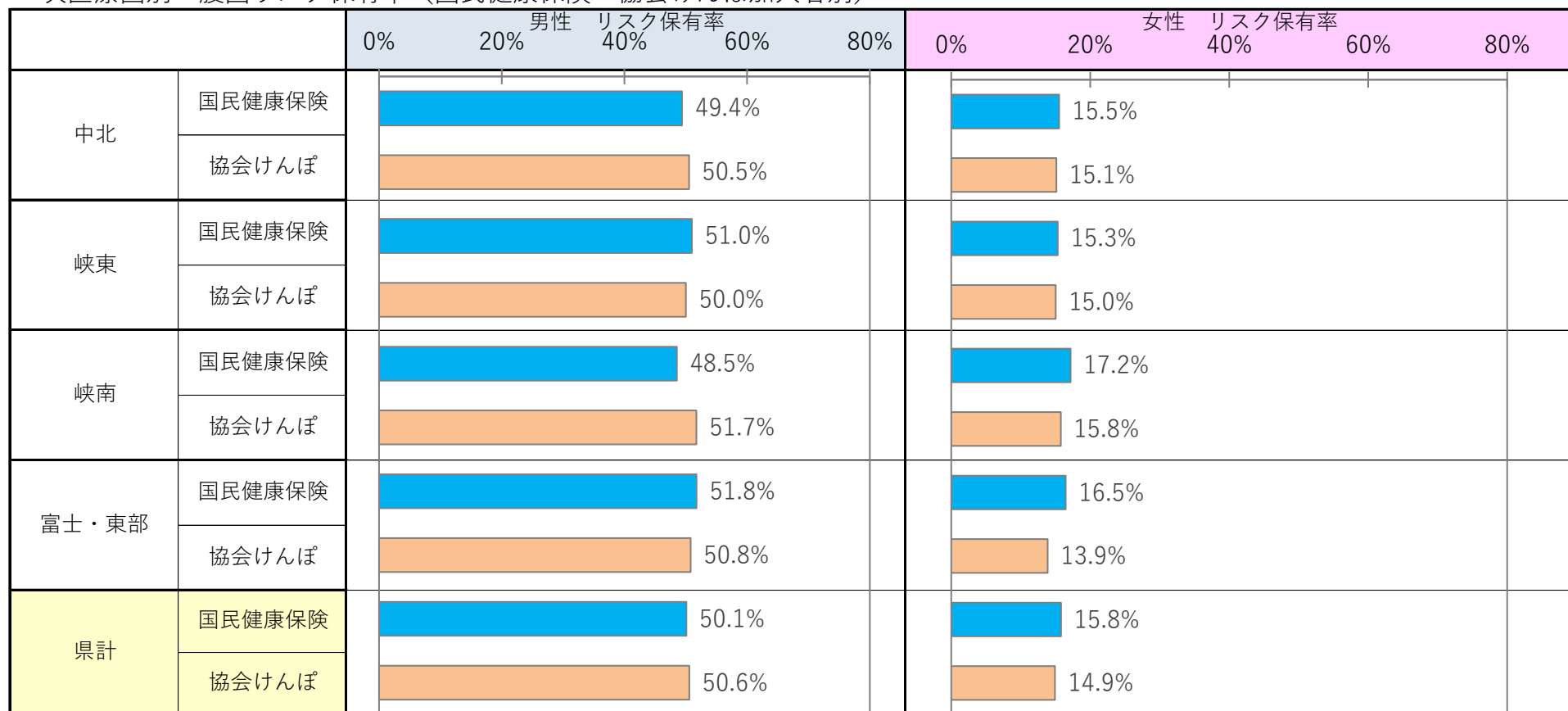
二次医療圏別 腹囲リスク保有率（国民健康保険・協会けんぽ加入者合計）



特定健診における腹囲リスク保有率は、県計で男性が50.4%、女性が15.3%と、男性は女性の約3.3倍高い割合となっています。地域別に見ると、男性では富士・東部地域（51.2%）、女性では峡南地域（16.5%）が高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

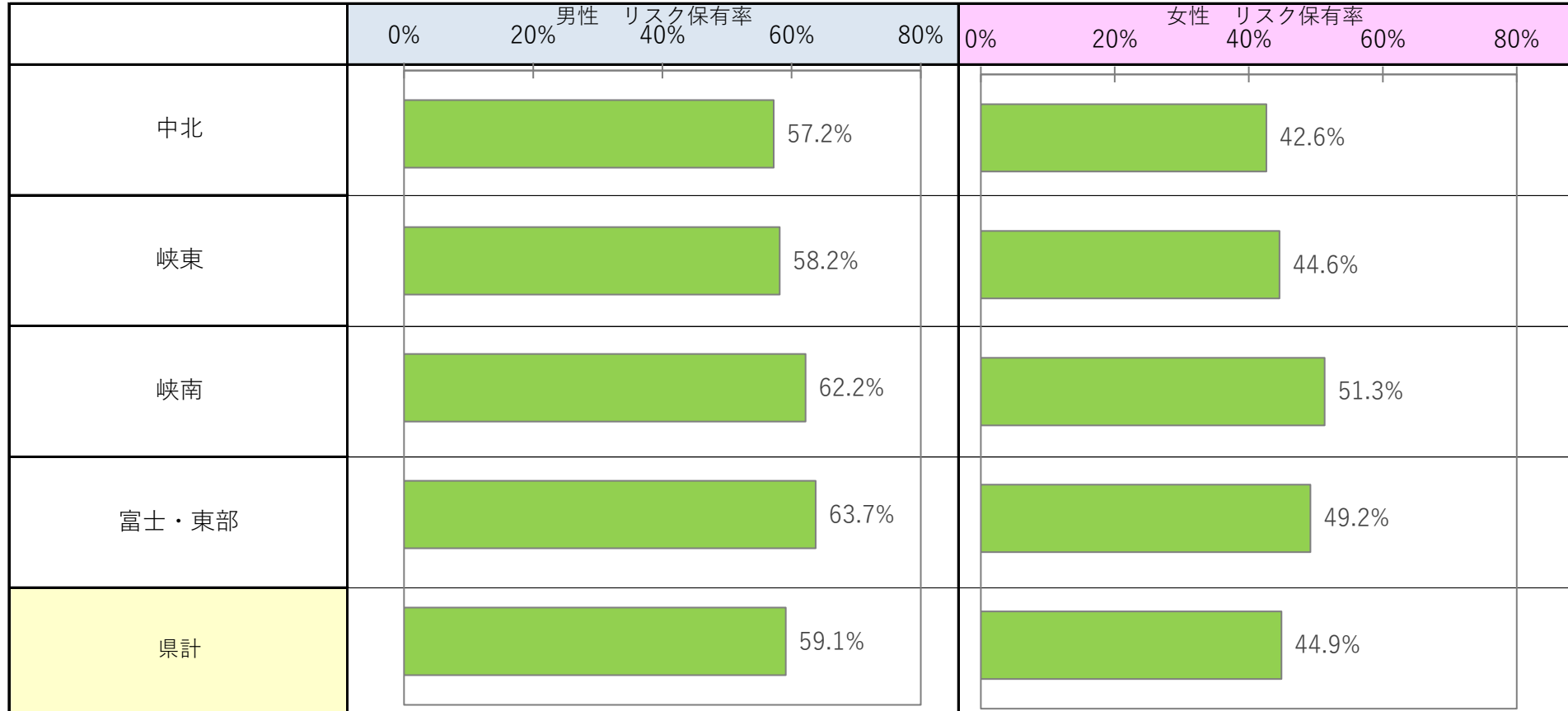
二次医療圏別 腹囲リスク保有率（国民健康保険・協会けんぽ加入者別）



腹囲リスク保有率を国保・協会けんぽ別に見ると、両者に大きな違いはありませんが、国保のほうが高い地域と協会けんぽのほうが高い地域が混在しています。地域別に見ると、国保では男性が富士・東部地域（51.8%）が高く、女性は峡南地域（17.2%）が高くなっています。協会けんぽでは、男性・女性ともに峡南地域（男性51.7% 女性15.8%）が高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

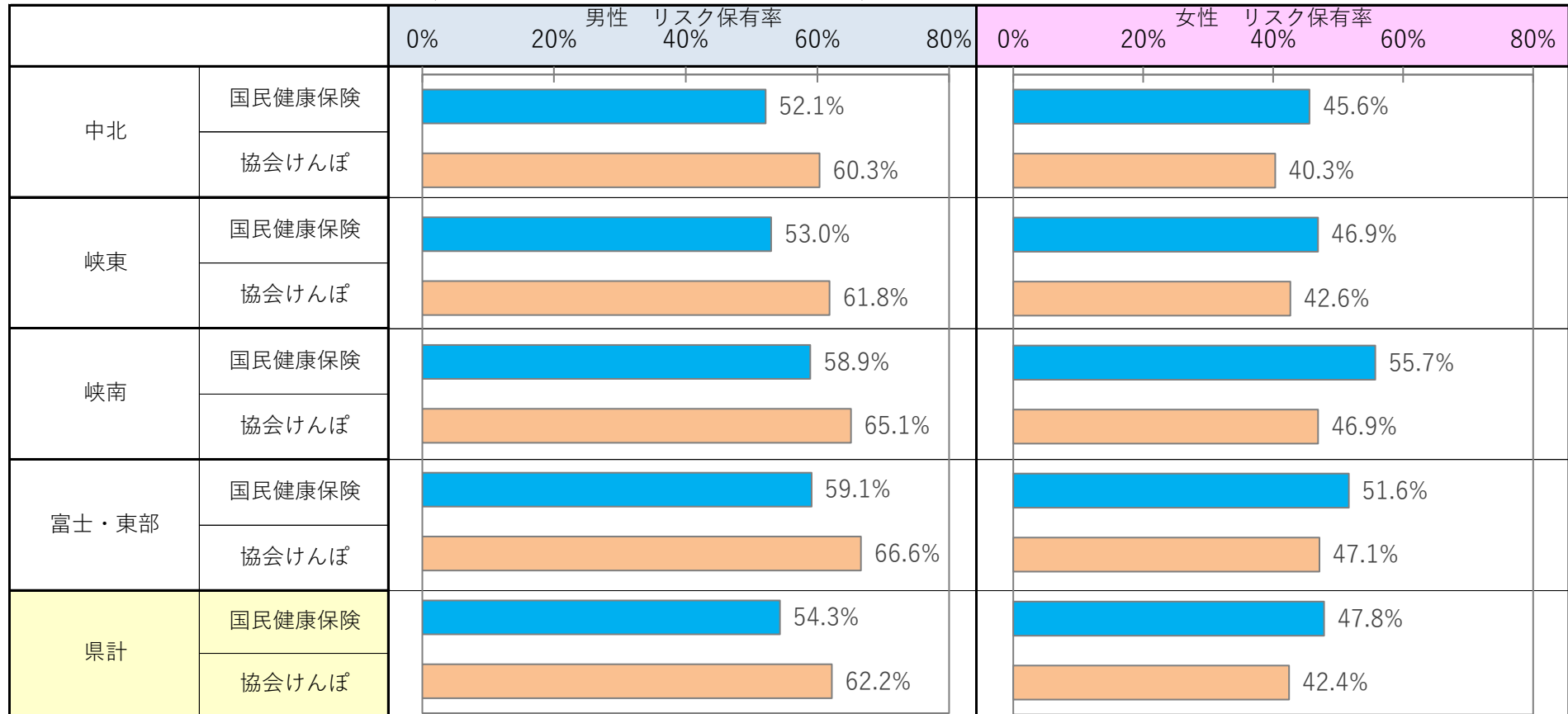
二次医療圏別 血圧リスク保有率（国民健康保険・協会けんぽ加入者合計）



特定健診における血圧リスク保有率は、県計で男性が59.1%、女性が44.9%と、男性は女性の約1.3倍高い割合となっています。地域別に見ると、男性では富士・東部地域（63.7%）、女性では峡南地域（51.3%）が高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

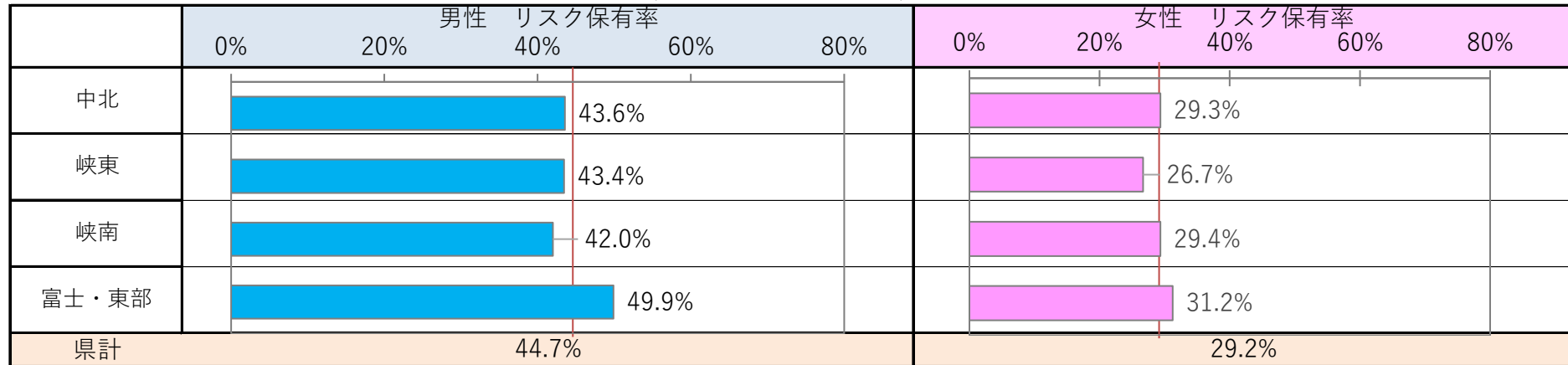
二次医療圏別 血圧リスク保有率（国民健康保険・協会けんぽ加入者別）



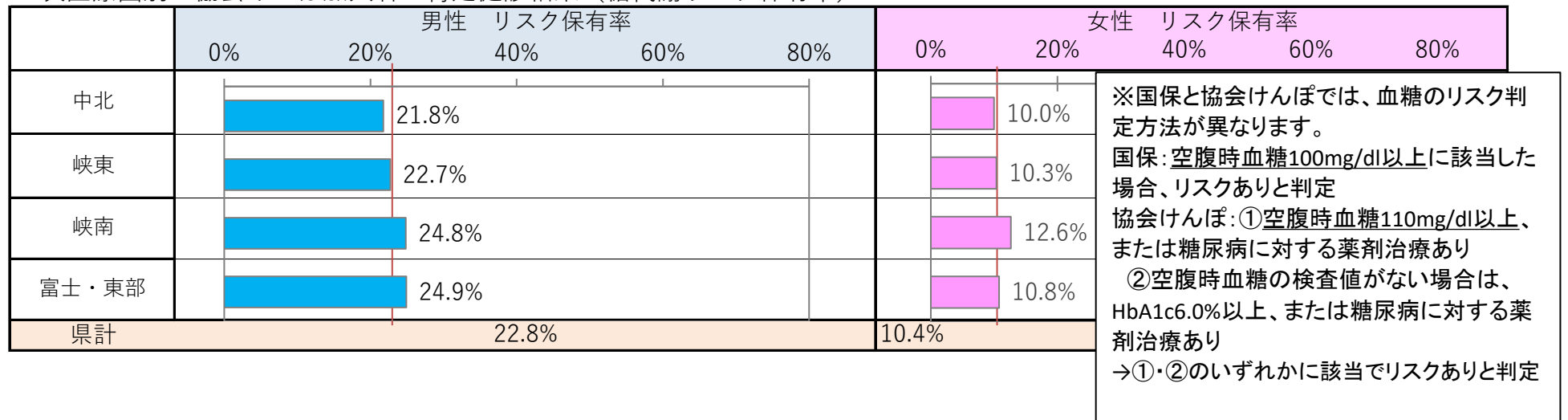
血圧リスク保有率を国保・協会けんぽ別に見ると、男性では国保に比べて協会けんぽが高く、女性では協会けんぽに比べて国保のほうが高い傾向にあります。地域別に見ると、国保では男性が富士・東部地域（59.1%）が高く、女性は峡南地域（55.7%）が高くなっています。協会けんぽでは、男性・女性ともに富士・東部地域（男性66.6% 女性47.1%）が高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

二次医療圏別 国民健康保険加入者 特定健診結果（糖代謝リスク保有率）



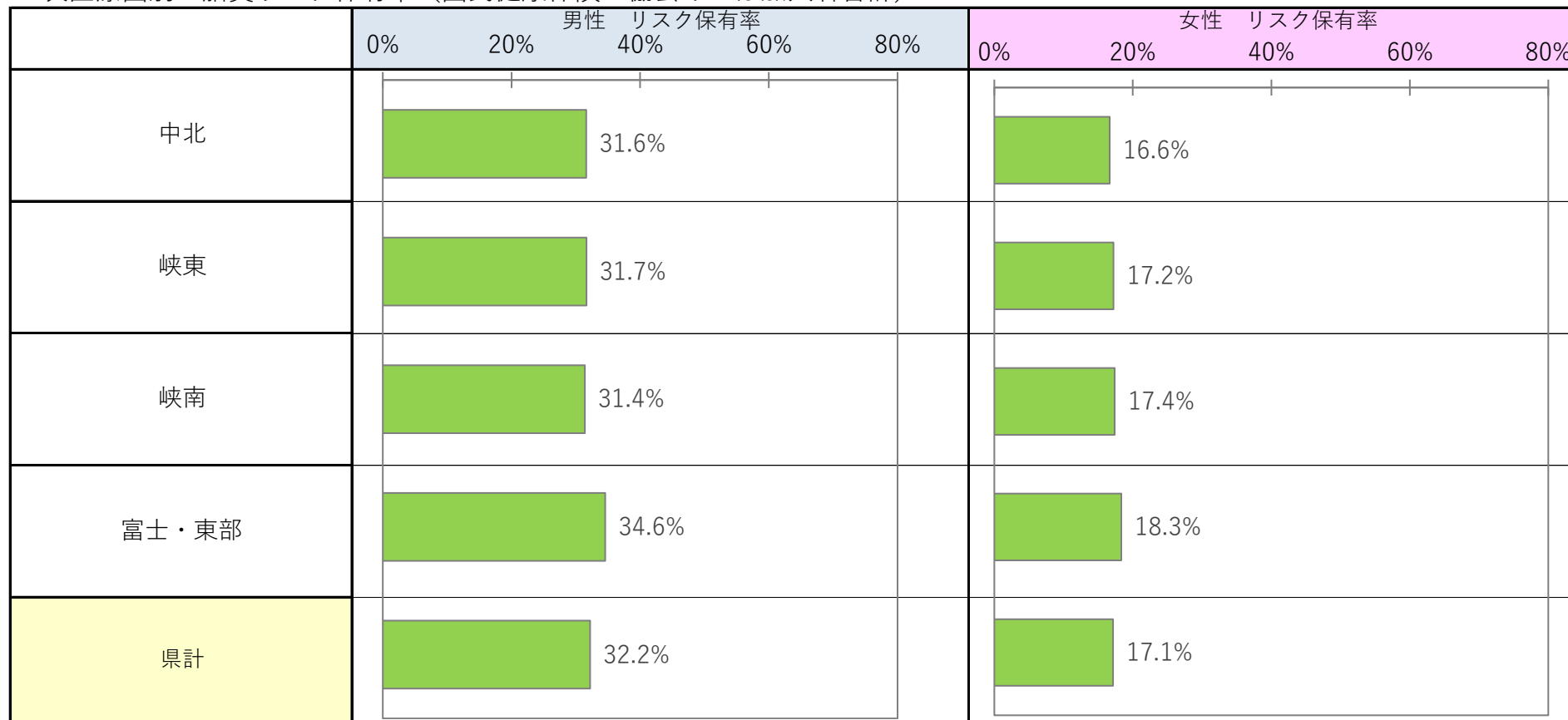
二次医療圏別 協会けんぽ加入者 特定健診結果（糖代謝リスク保有率）



特定健診における糖代謝リスク保有率は、国保と協会けんぽで血糖のリスク判定方法が異なるため、両者を合算することや比較することはできませんが、国保・協会けんぽともに女性より男性の割合が高い傾向にあります。地域別に見ると、国保では男性・女性ともに、富士・東部地域が高くなっています。協会けんぽでは、男性は富士・東部地域、女性は峡南地域が高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

二次医療圏別 脂質リスク保有率（国民健康保険・協会けんぽ加入者合計）



特定健診における脂質リスク保有率は、県計で男性が32.2%、女性が17.1%と、男性は女性の約1.9倍高い割合となっています。地域別に見ると、男性・女性ともに富士・東部地域（男性34.6% 女性18.3%）が高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

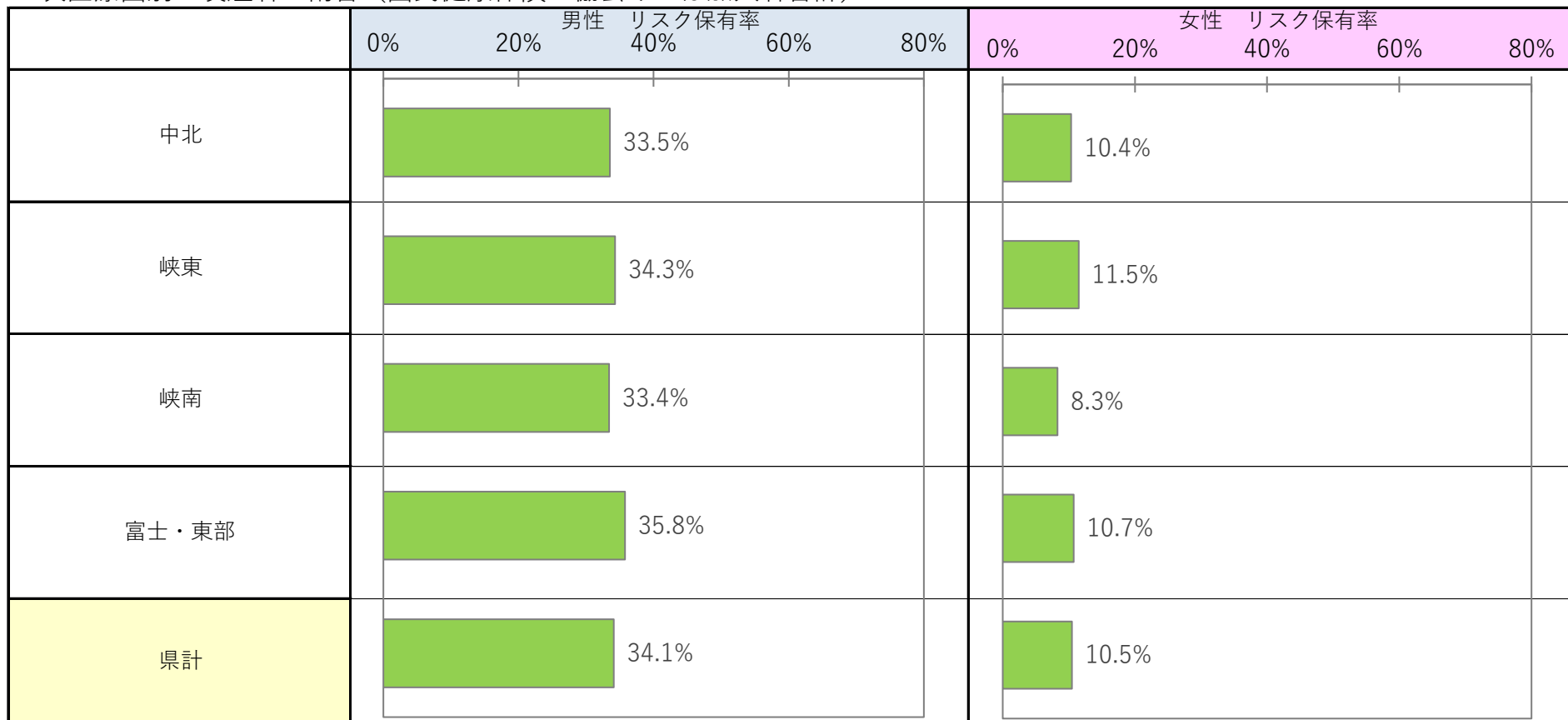
二次医療圏別 脂質リスク保有率（国民健康保険・協会けんぽ加入者別）

		男性 リスク保有率					女性 リスク保有率				
		0%	20%	40%	60%	80%	0%	20%	40%	60%	80%
中北	国民健康保険										
	協会けんぽ										
峡東	国民健康保険										
	協会けんぽ										
峡南	国民健康保険										
	協会けんぽ										
富士・東部	国民健康保険										
	協会けんぽ										
県計	国民健康保険										
	協会けんぽ										

脂質リスクを国保・協会けんぽ別に見ると、男性・女性ともに国保より協会けんぽのほうが高くなっています。地域別に見ると、国保では男性・女性ともに富士・東部地域（男性25.9% 女性14.8%）が高くなっています。協会けんぽでは、男性は富士・東部地域（40.0%）が高くなっています。女性は、地域間であまり大きな差はありませんが、峡南地域（21.8%）がやや高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

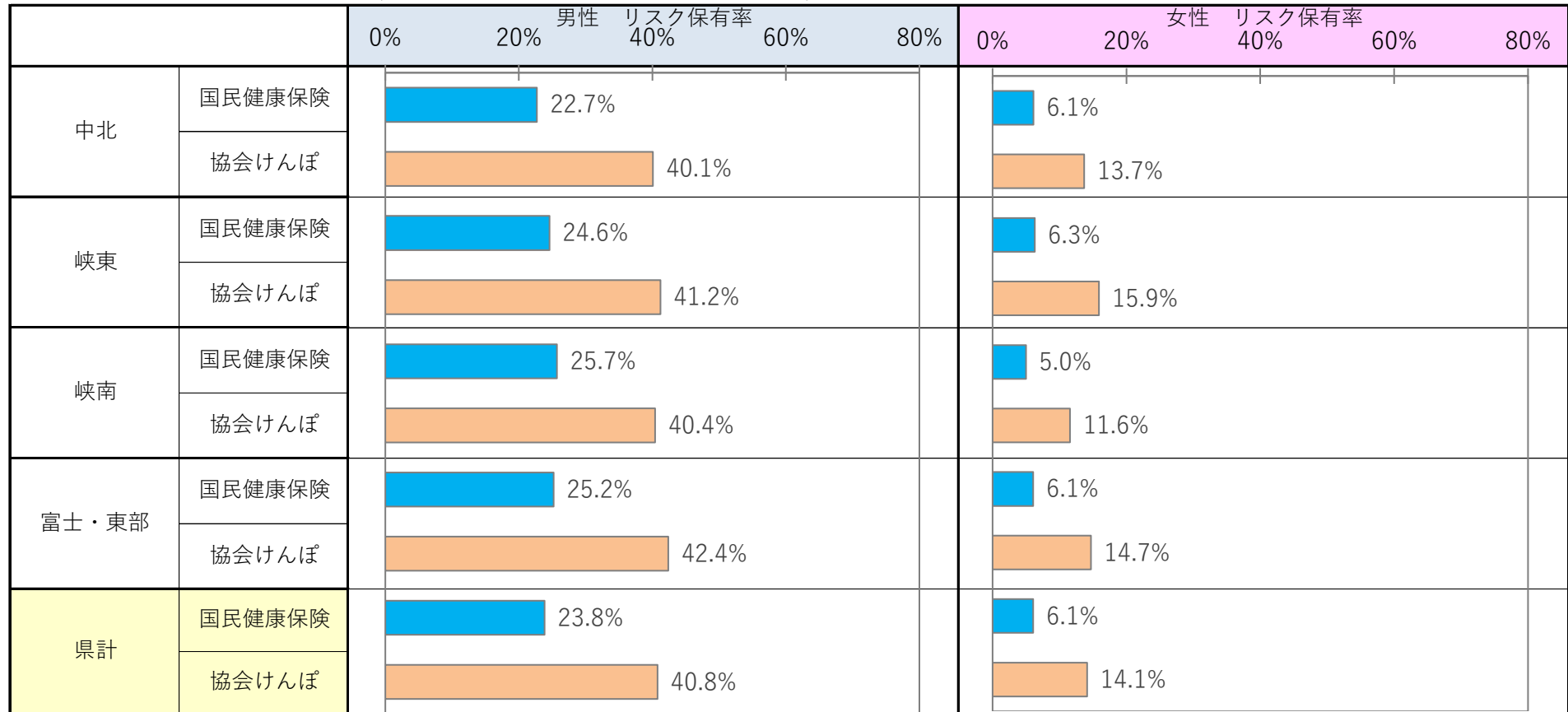
二次医療圏別 喫煙者の割合（国民健康保険・協会けんぽ加入者合計）



特定健診受診者の喫煙者割合を見ると、県計で男性が34.1%、女性が10.5%と、男性は女性の約3.2倍高い割合となっています。地域別に見ると、男性は富士・東部地域（35.8%）、女性は峡東地域（11.5%）が高くなっています。

特定健診受診状況（令和3年度）

二次医療圏別 喫煙者の割合（国民健康保険・協会けんぽ加入者別）



喫煙者割合を国保・協会けんぽ別に見ると、男性・女性ともに国保より協会けんぽのほうが高くなっています。地域別に見ると、国保では男性は峡南地域（25.7%）、女性はあまり大きな差はありませんが峡東地域（6.3%）がやや高くなっています。協会けんぽでは、男性は富士・東部地域（42.4%）が高く、女性は峡東地域（15.9%）が高くなっています。

●国保・協会けんぽの加入者の状況

加入者が最も多い中北地域（55.3%）と、最も少ない峡南地域（5.8%）では、約10倍の差があります。年齢別に見ると、国保では60～74歳が55%を占め、協会けんぽでは20～59歳が62%を占めています。特に、峡南地域は60～74歳の割合が高く、国保では63.8%になっています。

●一人当たりの医療費・傷病別医療費の割合

一人当たり医療費について、国保（335,964円）は、協会けんぽ（165,157円）の約2倍の額となっています。地域別では、峡南地域（263,208円）、峡東地域（242,451円）の順に高く、峡南地域・峡東地域は入院・入院外ともに県平均を上回っています。富士・東部地域は、入院は県平均を上回り、入院外は県平均を下回っています。また、令和2年度は国保・協会けんぽともに医療費が減少しましたが、令和3年度には医療費が増加しており、新型コロナウイルスの感染拡大による受診控えが解消したことによるものと考えられます。

傷病別医療費の割合は、国保、協会けんぽとも「新生物」と「循環器系の疾患」が高くなっています。国保と協会けんぽの割合を比較し、国保が高いのは「精神及び行動の障害」「神経系の疾患」「尿路性器系の疾患」で、協会けんぽが高いのは「呼吸器系の疾患」となっています。

●特定健診受診状況

【受診率】国保は45.1%、協会けんぽは63.5%で、峡南地域の受診率が高くなっています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、特に国保で令和2年度の受診率が減少していますが、令和3年度は令和元年度と同程度の受診率となっています。

【メタボ保有率・腹囲リスク保有率】メタボ保有率は男性（27.0%）、女性（7.4%）、腹囲リスク保有率は男性（50.4%）、女性（15.3%）で、男性は女性の約3～4倍高く、男性では富士・東部地域、峡南地域が、女性では峡南地域が高くなっています。

【血圧リスク保有率】男性（59.1%）は、女性（44.9%）の約1.3倍高くなっています。男性では国保に比べて協会けんぽが高く、女性では協会けんぽに比べて国保が高い傾向にあります。国保では、男性が富士・東部地域が高く、女性は峡南地域が高くなっています。協会けんぽでは、男性・女性ともに富士・東部地域が高くなっています。

【糖代謝リスク保有率】国保と協会けんぽでは判定方法が異なるため両者の比較はできませんが、男性は女性より高い傾向にあります。国保では富士・東部地域の男性及び女性が、協会けんぽでは富士・東部地域の男性及び女性、峡南地域の男性がやや高くなっています。

【脂質リスク保有率】男性（32.2%）は、女性（17.1%）の約1.9倍高く、男女ともに協会けんぽが国保より高い傾向にあります。地域別に見ると、富士・東部地域の男性がやや高くなっています。

【喫煙者の割合】男性（34.1%）が女性（10.5%）の約3.2倍高く、男女ともに協会けんぽが国保より高くなっています。国保では男性は峡南地域、女性は峡東地域がやや高くなっています。協会けんぽでは、男性は富士・東部地域が高く、女性は峡東地域が高くなっています。

●増加する医療費への対応

高齢化や医療技術の高度化による医療費の増加は、国保・社保の共通の課題となっています。医療費適正化のため、国保と社保で協力して被保険者が健康な生活を送れるよう取り組む必要があります。

●特定健診の受診の必要性

特定健診受診率が低い地域は、地域の健康課題が把握しにくい状況にあるとともに、被保険者における疾病の重症化を招く恐れがあるため、国保・社保が連携して特定健診の受診を推進し、早期に適切な保健指導や医療を受けるよう取り組む必要があります。

●保健事業の積極的な活用

保険者では、被保険者の健康増進のため、さまざまな保健事業を展開しています。被保険者が保健事業を積極的に活用し健康の維持増進に取り組むことは、医療費の適正化につながります。

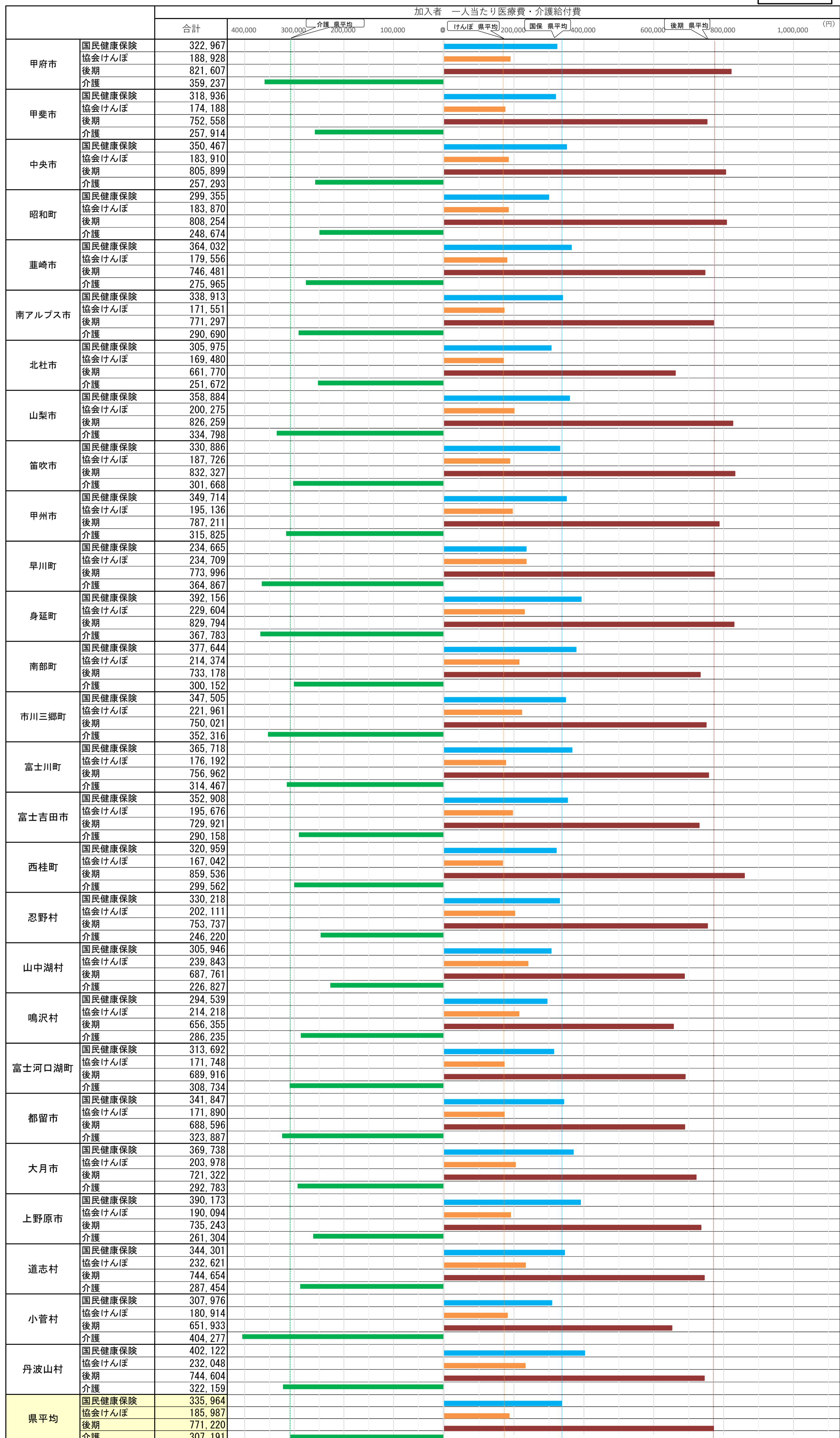
●保険者横断的な分析

保険者協議会では、地域の健康課題を把握するため、国保及び協会けんぽ加入者の医療費や特定健診の受診状況について、引き続き二次医療圏別の分析を実施します。

加入者一人当たり医療費・介護給付費（令和3年度）

市町村別 一人当たり医療費（国民健康保険・協会けんぽ・後期）・介護給付費

参考



国保一人当たり医療費は峡南地域、富士・東部地域が高い傾向がありますが、市町村により差があります。
一人当たり介護給付費も、同様の傾向が見られます。